

本学は、大学基準協会による 2008（平成 20）年度認証評価における「保留」をうけて、2011（平成 23）年度に改善報告書を提出し、その結果、基準協会の大学基準に適合しているとの再評価結果を頂きました。

改善報告書において表明した本学の改善の要点は、教育、研究、国際交流、社会貢献、管理運営、財政・施設整備、自己点検・評価に関して、中長期的な『相愛大学将来構想』を策定し、その構想下に設定されたさまざまな改善方策の着実な実施によって、大学改善を達成するというものでした。

この方針について、基準協会の再評価は、総評において、「『相愛大学将来構想』の策定とそれに基づく教育改革を推進するなど、指摘された問題へ真摯に取り組んできた。」「そこ（将来構想）では、学生の受け入れなどに関する抜本的な指針が示されており、今後の改善・改革の成果が期待される。こうした貴大学の改善・改革に向けた努力を勘案し、現時点で大学基準に適合していると判断する。将来構想については、全学的な自己点検・評価活動のもと、常にその進展について留意し、P D C A サイクルの中で、確実な成果をあげることができるよう努められたい。」と述べ、『相愛大学将来構想』に基づく大学改善方針について、一定の評価を行うとともに、その全学的な自己点検・評価活動により、これを不断に進展させ、成果をあげていくことを求めています。

本学は、この評価を踏まえ、学長がホームページにおいて、「この『相愛大学 将来構想』に掲げられた各項目の詳細な内容について、それぞれ「実施」と「検証」、さらには「改善」を加えた工程表を作成し、これに基づき、本学の内部質保証のための P D C A サイクルを円滑にスパイラルアップさせるべく、2011年度当初から、順次具体的に改革を実施しております。」と表明し、以後この方針のもとで、自己点検・評価活動を進めています。

具体的には、上記工程表における各項目と実施工程について、関連委員会と実施担当部署を定め、大学の全構成員が閲覧できるポータルサイトに、「相愛大学将来構想実施管理一覧」として掲示し、全構成員にその改善活動内容を公開するとともに、毎年度末に、関係各部署に各項目の実施計画立案、具体的実施状況、実施状況を踏まえた改善方策を記載した『実施計画書』『評価・改善計画書』の提出を求めることにしています。

次に、これについて、評価担当副学長を委員長とし、学長室を事務担当部署とする「相愛大学自己点検・評価実施委員会」が、その内容に関して点検・評価し、その結果を「相愛大学自己点検・評価委員会」において報告・審議し、必要な改善施策を執行部会議、大学評議会等で実施することにしています。

本学は、この方針を基本に大学の諸活動に関する自己点検・評価を毎年実施し、その内容を公表することによって、P D C A サイクルを実質化することに努めてまいります。

なお、本学はこれまで自己点検・評価報告書『響流』によって自己点検・評価の内容を公表し、最近刊として2009年に第4号を公刊していますが、今後、当面はこの「相愛大学将来構想実施管理」の点検・評価をもって自己点検・評価活動を公表することとします。